

熊本県天草地域を対象とする近現代の地図の網羅的な収集と整理

準会員○西牟禮成美^{*1} 正会員 辻原万規彦^{*2} 岡本孝美^{*3}

9. 建築歴史・意匠-8. 都市史 建築歴史・意匠
天草アーカイブズ, 航路, 道路, 天草上島, 天草下島

1. はじめに

熊本県天草地域の多くの島々は、かつては独立していたが、戦前から戦後にかけて、交通の整備によって島々が繋がり、また市街化も進んで、地域の環境やまちなみは大きく変化した。これらの変化を面的かつ視覚的に捉える際には、ある一定の期間に作製された様々な地図を相互に比較することが有用である。

そこで、本研究では、天草地域を対象として、明治から平成以前にかけて発行された様々な地図を網羅的に収集し、天草地域の環境やまちなみの変遷を検討することを目指す。

2. 収集した地図の概要

天草地域が大きく変化した時期と考えられる明治から平成以前の地図を、できるだけ網羅的に収集した。天草市立天草アーカイブズ、国立国会図書館、熊本県立図書館、海上保安庁海洋情報部海洋情報資料館を訪問して閲覧し、収集したほか、熊本県上天草市在住の郷土資料収集家にも地図をご提供いただいた。様々な種類の地図を、合計307面収集することができた。表1に収集した地図の一覧を示す。多数の地図を収集できたので、紙幅の関係から全ての地図のタイトルなどを示す一覧表を示すことはできなかつた。天草に関する全ての地図を収集できた訳ではないが、300面以上の地図を1ヶ所で収集したことはこれまでになく、意義のあることと考えられる。なお、収集した地図はリストを作成した後、全てデジタル化を行った。

表1中の天草全図（民間発行）は、地方自治体ではない民間が発行した地図で、天草全域が1枚に示された地図である。海図は、航海のために海洋を主体として航海上必要な沿岸の地物を含んで、水路の状況を正確に、見やすく表現した主題図である¹⁾。郵便地図は、日本全国の集配郵便局ごとに作成された地図である。集配業務に必要な郵便区界や戸数、道路の実測距離、

地下道、公園内の通路などが示されている²⁾。観光名所や物産を示した観光のための略地図は、「略図（観光用全域図）」に分類した。また、交通網や観光地の位置を示した略地図は、「略図（交通図・位置図）」に分類した。さらに、連絡道路や石の産地などのように特殊な主題に基づいた内容を示した略地図を、「略

表1 収集した地図の一覧

地図の種類	所蔵	面数
天草全図 (民間発行) (縮尺: 1/1,500,000 程度 ~1/50,000 程度)	熊本県立大学	5
	国立国会図書館	4
	熊本県立図書館	6
	個人蔵	9
	天草アーカイブズ	7
天草全図 (自治体発行) (縮尺: 1/100,000 程度 ~1/75,000 程度)	熊本県立大学	1
	熊本県立図書館	2
	個人蔵	2
都市地図 (縮尺: 1/10,000 程度)	天草アーカイブズ	1
	熊本県立大学	3
	国立国会図書館	2
	熊本県立図書館	2
	個人蔵	5
旧版海図	天草アーカイブズ	7
	国立国会図書館	3
	海上保安庁海洋情報部	23
旧版地形図 (縮尺: 1/50,000 程度 ~1/25,000 程度)	個人蔵	3
	国立国会図書館	4
	熊本県立図書館	17
	国土地理院	52
	個人蔵	5
郵便地図 (縮尺: 1/25,000 程度 ~1/5,000 程度)	天草アーカイブズ	50
	国立国会図書館	33
	熊本県立図書館	8
商工案内図	天草アーカイブズ	1
	国立国会図書館	1
略図 (観光用全域図)	天草アーカイブズ	1
	熊本県立大学	8
	個人蔵	1
略図 (交通図・位置図)	天草アーカイブズ	2
	熊本県立大学	8
	個人蔵	2
略図 (特殊な主題図)	天草アーカイブズ	3
	熊本県立大学	2
	天草アーカイブズ	1
その他	天草アーカイブズ	1
	熊本県立大学	2
	個人蔵	2
	天草アーカイブズ	22

図（特殊な主題図）」に分類し、鳥瞰図や港の平面図などは、「その他」に分類した。

3. 地図を用いた地域の変容の把握

収集した地図を利用して、天草地域の環境や天草のまちなみの変遷などを検討することができる。ここでは、収集した地図の一部から抽出した表2に示す地図を用いて、天草の上島北部と下島北部を対象に、交通体系の変遷を検討する。天草地域周辺の航路や道路を広く読み取るため、抽出した地図は、主として天草全域の様子がわかる民間発行の天草全図である。天草上島北部と天草下島北部を対象としたのは、隣接する長崎との関係や、三角半島を介して熊本市との関係を検討できると考えたからである。交通体系の変遷を検討したのは、交通体系が大きく変化し、天草地域と天草地域の外部とのやりとりが容易になり、天草地域の環境やまちなみの変遷に大きく関わったと考えたからである。なお、収集できた全ての地図を対象に、表2

で示す項目のほか、広告の有無、サイズなどの項目について一覧表を作成している。

図1から図4は、表2で示す地図上に示された航路と主要な道路を表す。戦前と戦後で分けるため、昭和10年代までを図1とし、昭和32年と昭和33年では航路網に大きな変化がみられたため、昭和20年代から昭和32年までを図2とした。さらに、昭和41年に天草五橋が開通したため、昭和33年から昭和41年までを図3、昭和42年以降を図4、という区分にした。航路は、地図中に示されているもの全てを示した。主要な道路としては、幅員があることがわかる道路（「＝」などのように示されているもの）、凡例に主要町村道改修線、県道改修線、自動車道路、バス道、バス道路、主要道路、バス・道路と示されている道路を対象とした。また、昭和40年からは、地図の凡例の表記が大きく変わるため、国道、主要地方道、県道と示されている道路を対象とした。図上に道路を示す際、既に示した道路

表2 交通体系の変遷を検討する際に用いた地図の一覧

	タイトル	測量、作成年代	発行年	縮尺	著作、発行者/発行所	所蔵
1	天草郡圖（『天草郡勢要覽』）	T5	T5	1:100,000	天草郡役所カ/印刷発行：九州日日新聞社	個人蔵
2	天草郡地圖（『天草郡地圖 本渡案内』）	T5	T6	1:100,000	編纂：米田孤庵/天草報知新聞社	天草アーカイブズ
3	天草郡圖（『天草郡勢要覽』）	T6 調製	T7	1:100,000	印刷発行：天草郡役所 秋吉亮橋/ 印刷：九州日日新聞社	熊本県立大学
4	島原海灣 天草郡地圖	T10代	T10代	1:100,000	不明	個人蔵
5	天草観光案内圖（『最新天草観光案内圖』）	S8	S8	1:150,000	編集：吉見教英/発行：みくに社、 校閲：本渡土木管区事務所、 賛助：天草国立公園期成会	個人蔵
6	景勝天草新地圖 （『景勝天草新地圖 附. 本渡町市街圖』）	S11頃カ	S11	1:138,000	編集兼印刷兼発行：吉見教英/発行：みくに社	天草アーカイブズ
7	天草観光地図（『観光地図 天草』）	不明	S24.4	記載なし	編集兼発行：小林實郎/ 印刷：日本交通印刷株式会社、発行：日本交通公社	熊本県立大学
8	新生天草郡地圖（『熊本縣 天草郡郷土地圖』）	不明	S24.5	記載なし	木村文助/長崎次郎書店	熊本県立大学
9	天草郡管内図（『天草郡勢要覽』）	S28	S28	記載なし	熊本県統計協会天草支部	天草アーカイブズ
10	最新天草郡地圖	S29カ	S29カ	1:150,000	発売元：長崎次郎書店	個人蔵
11	天草国立公園要図（『国立公園 天草案内』）	不明	S30.8	記載なし	不明/みくに社出版部	熊本県立大学
12	詳細天草新地圖	S30～31カ	S30～31カ	1:100,000	著作兼発行：水田文栄堂書店	個人蔵
13	国立公園天草明細地図（『国立公園天草案内』）	S32	S32	記載なし	編集：皆山武志/発行：株式会社交通案内社	天草アーカイブズ
14	天草国立公園③（『雲仙西海天草』）	S32カ	S32カ	記載なし	日本交通公社	個人蔵
15	国立公園天草明細地図（『国立公園天草案内』）	S33	S33	記載なし	提供：天草観光協会、 著作兼発行：皆山武志/取次店：鶴田玉文堂	個人蔵
16	国立公園天草明細地図（『国立公園天草案内』）	不明	S36	1:110,000	著作兼発行：皆山武志/取次店：鶴田玉文堂、 印刷：中央印刷紙工株式会社	熊本県立大学
17	国立公園天草明細地図（『国立公園天草案内』）	不明	S38	1:110,000	著作兼発行：皆山武志/取次店：鶴田玉文堂、 印刷：中央印刷紙工株式会社	熊本県立大学
18	国立公園 雲仙・天草 観光と交通 （『ビューティフルカントリー雲仙・天草』）	不明	S40代	1:150,000	不明/福岡人文社	熊本県立大学
19	雲仙天草国立公園 あまくさ 観光と交通 （『熊本・長崎からあまくさ 雲仙天草国立公園』）	不明	S42	1:150,000	人文社	国立国会図書館
20	ニュー天草雲仙観光図	S43	S43	1:100,000	発行所：合資会社北星堂、印刷：株式会社武揚堂	個人蔵
21	観光ドライブマップ 雲仙・天草 （『観光ドライブマップ 雲仙・天草』）	不明	S44	1:100,000	不明/和楽路屋	熊本県立大学
22	雲仙・天草観光地図 （『観光ドライブマップ 雲仙・天草』）	不明	S49	1:100,000	不明/ワラヂヤ	熊本県立大学
23	国立公園 雲仙・天草 観光と交通 （『ビューティフルカントリー雲仙・天草』）	S53	S53	1:150,000	人文社	個人蔵
24	国立公園 雲仙・天草 観光と交通 （『雲仙・天草 国立公園ガイド地図 改訂版』）	不明	S56	1:150,000	福岡人文社	国立国会図書館

注) タイトルの欄の（ ）は、複数の地図を含む場合などの全体のタイトルを示す。

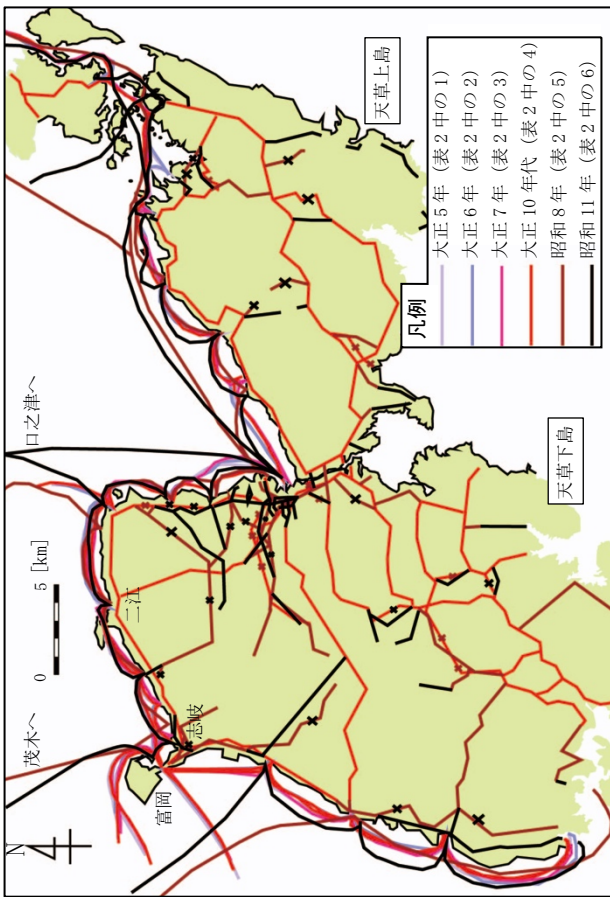


図1 大正5年から昭和19年の航路網と道路網

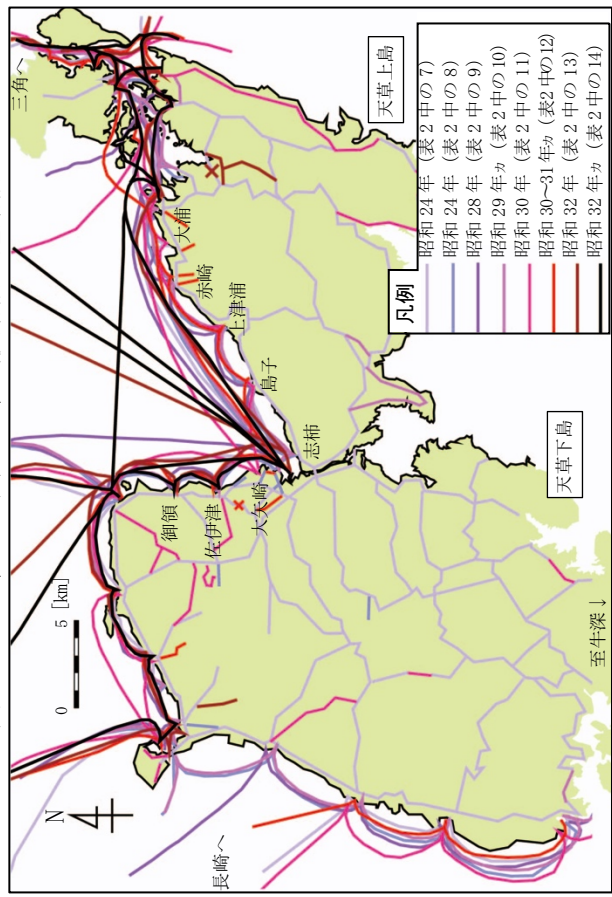


図2 昭和20年から昭和32年の航路網と道路網

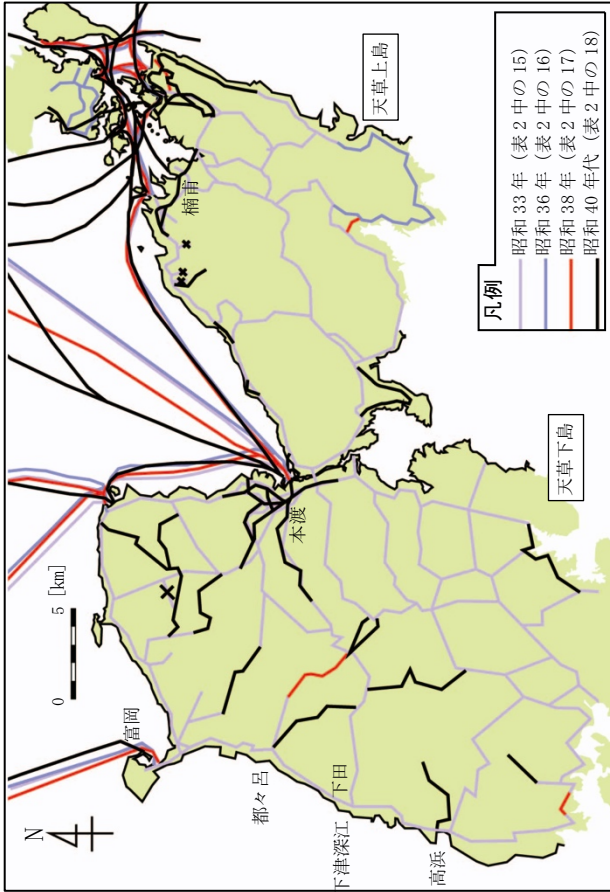


図3 昭和33年から昭和41年の航路網と道路網

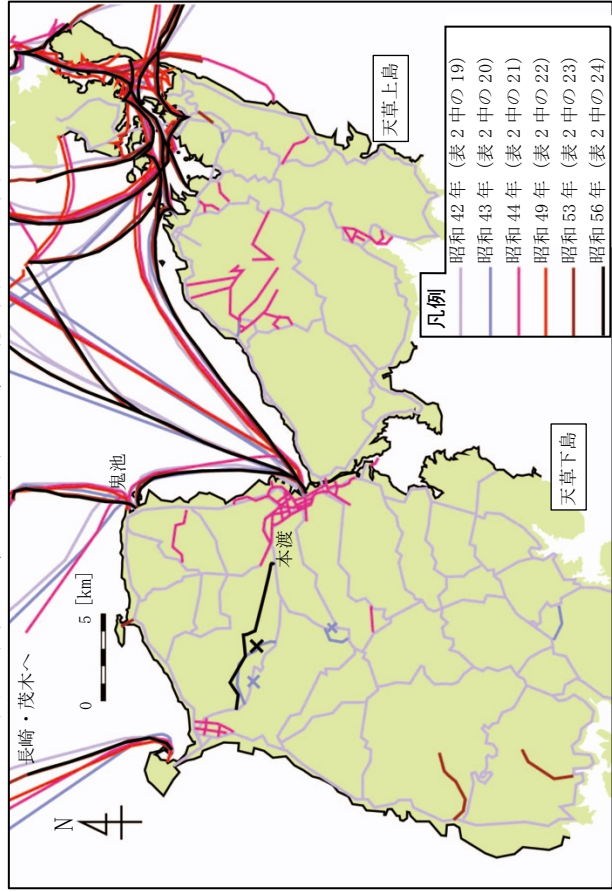


図4 昭和42年から昭和56年の航路網と道路網

が、より新しい地図では示されなくなった場合は、道路の上に「×」を示し、古い道路と近い場所に新しい道路が示されている場合は、「×」を示さず、古い道路に重ねて新しい道路を示した。

図1と図2を比較すると、航路網に大きな変化はみられない。しかし、主要道路に関しては、大正10年の地図(表2中の4)から、富岡～下津深江、富岡～本渡、二江～本渡、下津深江～本渡、牛深～本渡、志柿～楠甫間の道路が開通したことがわかる。また、昭和8年の地図(表2中の5)から天草上島と下島をつなぐ開閉橋(瀬戸橋)が示されるようになり、下津深江～高浜へ道路が伸び、内陸部で主要道路が増加したことがわかる。これらの道路を利用して、「大正10年、若田蘭市が牛深一本渡線を、同13年に倉橋愛介を起用して吉原宗三郎が本渡一富岡線を」³⁾、「昭和3年に大江徳太郎が本渡・下田線、同6年に山下巖が富岡・高濱線と、乗合自動車の路線を次々に開通させていった」³⁾。また、「本渡～大浦間に乗合自動車が登場したのは大正13年(1924)であった」⁴⁾。

図2と図3では航路網に大きな変化がみられた。昭和32年の地図(表2中の13)から、天草下島の西海岸の航路がなくなり、本渡～大浦間の航路では島子、上津浦、赤崎に寄らなくなった。また、天草下島北部の航路がなくなり、鬼池～本渡間の航路では御領、佐伊津、大矢崎に寄らなくなった。天草下島北部では富岡、鬼池、本渡のみが、港としての機能を果たすようになった。一方、主要道路に関しては、昭和30年の地図(表2中の11)で、鬼池、御領付近と天草上島東部の道路が増加した。昭和40年代の地図(表2中の18)では、天草下島北部と西部、天草上島北部の道路が増え、天草五橋が開通したことが読み取れる。

図3と図4を比較すると、天草五橋が開通したにもかかわらず、航路網に大きな変化はみられないが、昭和44年の地図(表2中の21)から本渡、志岐、赤崎の都市や集落周辺の道路が増加したことがわかる。

以上のことから、大正10年代から昭和40年代にかけて数多くの道路が整備されて陸上交通が発展し、逆に昭和30年までは栄えていた海上交通が昭和30年か

ら33年を境に衰退した様子がわかる。ただし、昭和41年の天草五橋の開通は、開通の前後の時期における海上交通の変化には大きな影響を与えなかった。

一方、天草と長崎の関係については、昭和31年までの地図(表2中の1～12)では、天草下島北部の各地から、長崎県の長崎港や茂木港への航路が多数確認できた。しかし、昭和32年以降の地図(表2中の13～24)では、天草下島の鬼池港と長崎県の口之津港を結ぶ航路、天草下島の富岡港と長崎県の茂木港を結ぶ2つの航路に集約されたことが確認でき、これは現在まで変化していない。また、天草と三角半島もしくは熊本市の関係については、昭和8年の地図(表2中の5)、昭和11年の地図(表2中の6)、昭和28年の地図(表2中の9)で、本渡～三角間でいくつかの港に寄港する航路線とは別に、本渡～三角間の直航線も確認できた。また、昭和41年に天草五橋が開通したものの、大正5年から昭和56年までの地図(表2中の1～24)では、本渡～三角の航路が確認できたが、「昭和43年(1968)には幹線航路であった九州商船の本渡～三角航路が停止され、九州本土との交通は一挙に大矢野島経由しての陸行となった」⁴⁾との指摘もある。

4. まとめ

天草地域が大きく変化した時期と考えられる明治から平成以前の様々な種類の地図をできるだけ網羅的に収集し、合計307面を収集することができた。収集した地図を利用すれば、天草地域の環境や天草のまちなみの変遷などを検討することができる。本稿では、収集した地図の一部を用いて、天草の上島北部と下島北部を対象に、交通体系の変遷を検討した。

謝辞 資料収集とデジタル化に際しては、天草市立天草アーカイブズ 松野恭子氏、国立国会図書館、熊本県立図書館 情報支援課 池浦雅子氏、上天草市在住の山崎信一様、海上保安庁海洋情報部 海洋情報資料館、(株)富士マイクロにご協力いただいた。また、本稿は、平成30年度熊本県立大学地域貢献研究事業による成果の一部である。記して謝意を表す。

参考文献・引用文献

- 1) 杵名景義、坂戸直輝：新訂 海図の知識、成山堂書店、1996.7
- 2) 伊藤直美：通信(郵便)地図 その手紙が辿る距離をはかる、国立国会図書館月報、No.659、pp.2～3、2016.3
- 3) 鶴田文史監修：図説 天草の歴史、郷土出版社、2007.12
- 4) 濱名志松編：天草海上交通史、イナガキ印刷、1997.1
- 5) 天草文化協会『天草の今昔』編集委員会監修：保存版 天草の今昔、郷土出版社、2013.2

*1：熊本県立大学環境共生学部

*2：熊本県立大学環境共生学部 教授・博士(工学)

*3：熊本県立大学環境共生学部 助手・修士(工学)

Prefectural University of Kumamoto

Prof., Prefectural University of Kumamoto, Dr. Eng.

Assistant, Prefectural University of Kumamoto, M. Eng.